

スポーツ・武道実践科学系

氏名

まえ さか しげ き
前 阪 茂 樹

教授



主な研究テーマ

□剣道は、我が国で発祥した武術（剣術）が長い歴史を踏まえて今日に継承・発展してきた競技文化であり、武道といわれるものです。日本が世界に誇る文化である「武道としての剣道」の内容を正しく継承し、実践・指導すること、若しくはそのための教材開発を行なうことが研究のテーマです。

平成24年度の研究内容とその成果

剣道の技術・競技力は、一般のスポーツ・トレーニング科学の常識では当てはまらない面が多々あります。トレーニングを行い、単に筋繊維を太くしても剣道の力はずきません。また、実際に剣道の現役選手が高段者に稽古をつけてもらう際に手も足も出ない程に稽古をつけられることがあります。私は剣道の「老いて尚強し」という神妙な世界に非常に魅力を感じています。なぜ、このようなことが起こるのか、やはり対人特性のある武道においては「わざ」も勿論重要ですが、「こころ」の部分が大変重要であると思います。そのことは古文献にも多くみることができます。それらを抽出・整理し自らの実践経験若しくは指導の経験則を重ねていくことが大事であると感じます。

剣道ではよく「事理一致」つまり「できる」+「わかる」ことの大事が問われます。また、剣道の特性は実践を通して相手と勝負する中で、自分自身に問いかけ、求めるものでもあります。「剣道形」や「打込み」・「切り返し」という基本稽古を繰り返し行

い、自己修練と内省を通し、「わざ」と「こころ」を一体化させる稽古（実践）を通して、相手に左右されない境地と技術を得ることが尊い訳です。剣道に限らず「道」の世界は殆どが同じような修練の構造を持っています。道は遠く困難ですが、学生達とともに毎日“床を磨き、汗を流し、心を洗い”ながら少しずつでも剣道の持つ教育特性を最大限活かせる指導法の研究に取り組んでいきたいと思ひます。

このように剣道の研究内容とその成果は、その年度毎にはっきりと現れるものではありませんが、剣道の正しい普及と伝承ということを常に念頭に置いて教育・研究に専念したいと考えています。